

再評価結果（平成31年度事業継続箇所）

担当課：都市局街路交通施設課
担当課長名：本田 武志

事業名	名古屋鉄道名古屋本線等（知立駅付近）	事業区分	連続立体交差	事業主体	愛知県
起終点	自：愛知県刈谷市一ツ木町五丁目 愛知県知立市池端一丁目 愛知県知立市池端一丁目	至：愛知県知立市内幸町加藤 愛知県知立市牛田町裏新切 愛知県知立市東上重原四丁	延長	5.0 km	
事業概要	本事業は、名古屋鉄道名古屋本線・三河線の知立駅付近約5.0kmにおいて鉄道を高架化し10箇所の踏切を除却する事業である。				
平成12年度事業化	平成10年度都市計画決定	平成12年度用地着手	平成24年度工事着手		
全体事業費	約505億円	事業進捗率	39%	供用済延長	km
計画交通量	186,976台時/日（踏切交通遮断量）				
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.3	総費用 (事業全体) 490億円 事業費：490億円 維持管理費：0.3億円	総便益 (事業全体) 630億円 走行時間短縮便益：599億円 走行経費減少便益：31億円 交通事故減少便益：1億円	基準年	平成28年
感度分析の結果	(事業全体) 交通量：B/C=1.3（交通量±10%） 事業費：B/C=1.2～1.4（事業費±10%） 事業期間：B/C=1.2～1.3（事業期間±1年）				
事業の効果等	① 踏切遮断の解消 知立駅東側隣接踏切の遮断時間（約47分/60分）が解消される。 ② 踏切渋滞の解消 県道安城知立線（知立4号踏切）の最大渋滞長（約220m）が解消される。 ③ 集約型まちづくりの実現に寄与 区画整理事業等と一体となって街づくりを進めている ④ 歩行者・自転車の利便性・安全性の向上 歩行者ボトルネック踏切の解消。				
関係する地方公共団体等の意見	【愛知県鉄道立体交差事業促進協議会（H30.11.8）】 【愛知県知立市・商工会・地元町内会（H30.11.28）】 ・連続立体交差事業の計画的な事業促進が図られるよう要望する。				
事業評価監視委員会の意見	・事業継続は妥当である				
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	・踏切の遮断状況は変化がなく、渋滞状況は減少傾向であるが依然として発生しており、この解消に向けた鉄道高架化の必要性が依然として高い。				
事業の進捗状況、残事業の内容等	・【進捗率（H29年度末）】 事業費ベース：39%（237億円/610億円） 用地進捗（面積ベース） 【名古屋本線】 仮線、本線、側道ともに、進捗率100% 【三河線】 豊田方：進捗率 68% 碧南方：進捗率 92%				

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

・昨年度に着手した名古屋本線高架本体工事を推進するとともに、知立駅部においても仮駅舎整備後に高架本体工事に着手する予定。
三河線の用地補償を推進する。

施設の構造や工法の変更等

・設計の段階から可能な限り工事費の縮減に努める。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないものと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。